

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.807
2018.9.9

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

山崎 あきら	久保 みき
神田よしゆき	もりや千津子
戸島 よし子	松村 としお
とりうみ敏行	大木 学

9月議会

心身障害者医療費支給に所得制限を市長が提案

決算は 63 億円の黒字
基金は約 699 億円

9月議会が、9月5日からはじまりました。昨年(2017年)度決算の認定議案のほか、会議施設や子育て支援にかかわる議案も提案されています。

とくに大きな問題となるのは、重度心身障害者の医療費支給に所得制限の導入を狙っていることです。埼玉県が所得制限を導入することに合わせて、さいたま市も実施しようとしています。埼玉県は、これまでも障害者や高齢者などの医療費に所得制限や年齢制限で対象者の削減をおこなってきました。重度の障害者まで所得制限をするのか、市の姿勢が問われます。市独自で所得制限をしないで制度を守ることはできます。審議を通じて市に対応を求めています。

小中学校の建築基準法に適合していないブロック塀の撤去と仮設のフェンス設置のための補正予算が緊急に出されました。党市議団として、6月に大阪北部地震による被害を受けて、学校ブロック塀の安全対策を市に求めていることが力になりました。

2017年度決算では、全会計で約8573億円の収入、約63億円の黒字となり、さいたま市誕生以来最大の決算規模でした。また貯金ともいえる基金は約699億円で前年から約9億円増えました。なお水道会計の純利益は約58億円でした。厳しい市民の暮らしのもとで集められた税金が、市民のために使われたか、決算特別委員会の審議を通じて厳しくチェックします。

その他の議案

- ・さいたま市文化センター外壁改修
- ・与野本町小学校複合施設建設
- ・グリーンセンター大崎第一工場解体など



再開発は誰のため?

もりや千津子市議のレポート

8月24日、夏の自治体議員研修セミナーが東京都江東区で開催され、党市議団からもりや千津子市議が参加しました。

「最新の都市計画・再開発・区画整理の動向を追う」と題し、講義をした岩見良太郎さん(埼玉大学名誉教授)は、アベノミクスの超低金利政策が進められるなか、大手不動産会社が少ない投資でより多くの利益を得ながら開発、再開発に拍車をかけていると説明。政府は2つの特区、「都市再生緊急整備地域」



講義をする岩見良太郎さん

と「国家戦略特区」を設け、超スピードで規制緩和を進めています。一方で、公共施設の跡地を利用して再開発を進めることで、莫大な公費を投入するという新たな手法も紹介されました。事例として、総事業費620億円のうち440億円の公費が使われる「市民会館おおみや」が示されました。住民が苦勞して納めた税金が、大手不動産会社の「稼ぎ」につぎ込まれる再開発計画に、改めて大きな危機感を抱きました。

言論の自由を否定する「九条俳句」不掲載

9月2日、「九条俳句」市民応援団の主催で、三橋公民館だよりへの俳句掲載と表現の自由を求める集会がおこなわれ、もりや千津子、大木学の両市議が参加しました。市は5月28日に、市を敗訴とする二審判決を不服として最高裁に上告しました。

集会で講演した田島泰彦さん(早稲田大学非常勤講師)は「不掲載問題は偶発的に起きたのではなく、近年の国家による市民への監視と言論統制の強化が背景にある。全体の奉



講演をする田島泰彦さん

仕者である公務員は憲法を守る義務があり、市民が自由に表現できる公民館から特定の意見だけを排除することは許されない」と話しました。

思想内容を問題とした掲載拒否は、憲法が禁止する検閲に該当する表現の自由の侵害です。市議団として、担当課と作者との現場での解決に向けた話し合いを求めています。

人手不足が深刻 **さいたま市学童保育連絡協議会と懇談** **国の処遇改善費の満額適用を**



さいたま市学童保育連絡協議会のみなさんと懇談する党市議団

9月3日、さいたま市学童保育連絡協議会（市連協）が来年度予算に対する要望について、党市議団と懇談しました。

公立には待機児童の問題などがあり、また民間では分離などでの施設確保の困難があり、公民共通では、指導員が深刻な人手不足となっています。

市連協は「国がおこなっている指導員の処

遇改善費補助金（1クラブ300万円）の満額適用が必要。隣の上尾市では、すでにこの補助金とさいたま市で活用している『キャリアアップ補助金』を併用し、初任給20万円を実現している。大規模になって分離しなければいけないのに、施設がなく、指導員のなり手がいないためにできない学童が多い」と、その緊急性を説明しました。

市連協は施設確保について「施設改修のための市からの補助は100万円。上限20万円の家賃補助では保育にふさわしい物件が見つからない。民家の改修費設備整備修繕などに国の1200万円（1施設）の補助金を活用してほしい」と訴えています。党市議団は、これからも国庫補助の満額活用を市に求めています。

必要な医療に所得制限を設けないで

障害者団体が要望書を提出

8月31日「障害者（児）の生活と権利を守るさいたま市民の会」が、「心身障害者医療費支給制度について所得制限を導入しないでください」という要望書を市に提出しました。党市議団からは、久保みき市議が同席しました。

この制度は、障害者とその家族の経済的負担を軽減するため、医療機関を受診した場合の医療費の一部負担金を県と市町村で助成する制度です。重度の障害者は、命や健康を維持するため、また、障害をこれ以上悪化させないために絶えず医療を必要とします。障害者とその家族にとって、安心して医療を受け



要望書の提出に同席する久保みき市議（右）

るために必要不可欠な制度です。

同会は、県が所得制限導入を決めたことを受け、市は所得制限を導入しないよう求めています。

9月議会には、同制度への所得制限導入の議案がかけられています。政令市である本市は県同等の権限があり、市民の命を守る役割が求められます。党市議団は引き続き医療・福祉の削減に反対し、さらなる充実を求めています。

事故車からの救出訓練



本番さながら 防災訓練実施

8月25日、さいたま市立第二東中学校グラウンドにて、さいたま市地域防災計画および九都県市防災訓練大綱に基づく2018年度の総合防災訓練がおこなわれました。党市議団から、とりうみ敏行、久保みきの両市議が参加しました。当日は、M7.3、最大震度6強の直下型地震がさいたま市において発生したとの想定でした。会場には、救出救護エリアをはじめ、体験訓練エリア、炊き出し訓練エリアなど数カ所に訓練施設が設置され、各自治会、消防団など市内各地からの参加者が本番さながらの訓練をおこなっていました。

参加したとりうみ市議は「災害はいつ発生するかわからない。日頃からの訓練が大切だ」と述べました。

あなたの身近な議員です



市議(中央区)
山崎あきら



市議(北区)
神田よしゆき



市議(見沼区)
戸島よし子



市議(浦和区)
とりうみ敏行



市議(桜区)
久保みき



市議(南区)
もりや千津子



市議(緑区)
松村としお



市議(岩槻区)
大木学